

元気のヒント

◁15▷



秦 裕子

徳島大学病院眼科

緑内障

緑内障は、眼の固さである眼圧によって、眼の奥にある視神経が障害され、視野が狭くなる病気です。日本人の失明原因の第一位に挙げられていて、最近の調査では、40歳以上の17人に1人は緑内障であることが分かっています。にもかかわらず、適切に治療を受けている人は1割程度というデータも出ています。

つまり、緑内障はこれほどありふれた病気でありながら、無治療で放置されていることが多い疾患なのです。なぜ緑内障は自覚されにくいのでしょうか。それは、私

です。そのため、「視力が良に戻す」ことではなく「症状いから緑内障ではない」とは言えないのです。緑内障の診断は、眼圧検査や視野検査、断は、視神経の所見などを総合して行われます。緑内障が自覚されにくいもう一つの原因として、痛みが少ないことが挙げられます。急性の「緑内障発作」といわれるものであれば、充血や眼痛を伴います。しかし、ほとんどの緑内障は、「慢性緑内障」という痛みを伴わないものでしょう。それは、私

自覚されにくい疾患

早期発見と治療の継続を

ちは視線を動かしたり、無意識に両眼で補い合ったりして物を見ているため、実際に視野障害が起こっても自分では気が付かないことが多いのです。このように、自覚症状が少ないことが、緑内障の発見を遅らせる原因と考えられます。

また、初期の緑内障は、視力測定では発見できません。視力は、緑内障の末期まで良好に保たれることがほとんど

残念ながら、視神経は一度障害を受けてしまうと回復することはありません。そのため緑内障の治療の目標は「元

治療を続けていても、良くなる実感がないため中断してしまう方もおられます。しかし、悪くなってしまうことからでは元に戻せないため、根気よく治療に取り組むことが大切です。

緑内障による視野障害

視野が欠けている部分

